

# 巣立ちの4322人に贈る

# 「履正無畏」

# 三ノ専修

「専修大学」ホームページ <http://www.senshu-u.ac.jp/>

毎月1回15日発行  
(定価一部90円)  
発行所  
専修大学広報課  
〒101-8425 東京都千代田区  
東神田3-8-8  
☎03-3265-5819(直)

## 主なニュース

- 学部長・大学院研究科長・法科大学院長の「贈る言葉」……………2
- 川島記念賞受賞者名/大学院・法科大学院総代……………3
- 定年退職される先生方のメッセージ……………4
- 卒業生・修了生が振り返る「専大の思い出」……………6
- 人文・ジャーナリズム学科ビデオ卒業制作発表会……………7
- ／社会学科優秀卒業論文発表会……………12
- 石巻専修大学 学位記授与式/川島記念学術賞受賞者……………14

新・学士課程教育  
2014年4月  
スタート

ソチ五輪 フリースタイルスキー女子ハーフパイプ

## 小野塚彩那さん

(平22商)

# 銅

(16面に記事)

## 2013年度 卒業式・ 学位記授与式

穏やかな日差しが春の訪れを感じさせる3月22日、2013年度の専修大卒業式・学位記授与式が東京・千代田区の日本武道館で行われた。今年度の卒業生を出す人間科学部ほか学部卒業生、大学院修了生、専門職大学院(法科大学院)修了生あわせて4322人が晴れの日に迎えた。会場を埋めたご父母・保護者の祝福を受け、卒業生・修了生はキャンパス生活を振り返り、新生活に思いをはせた。

学位記、川島記念賞が各総代に贈られたあと、矢野建一学長が式辞を述べた。また日高義博理事長は祝辞の中で、「人生の勝負はこれから。夢の実現に向けて大きく羽ばたき、キラリと光る存在になっていただきたい」と激励した。卒業生・修了生を代表して浜岡百合子さん(人間科学部社会学科)が「世界のさまざまな人を知り、認め合い、ともに笑顔でいられるような社会をつくらしていきたい」と感謝の気持ちと抱負を込めて謝辞を述べた。



▶ 卒業生・修了生を代表して笑顔で謝辞を述べる浜岡百合子さん



▶ 「黒門」の前で



▶ 式典を終えて

## 学長式辞 矢野建一



正しいと信じることに  
正面から挑戦しよう

の留学を果たした経歴をことが目標とされていまもっています。最先端の法律学、経済学を学び、帰国後の明治13(1880)年、専修大学の前身である「専修学校」を立ち上げました。

その「開学届け」の「創立主旨」には、年齢や学歴は問わず、経済学と法学に志あるものであろうないわゆる「想定外」の出来事に出合わないことと明記されています。これも限りません。万策尽の主旨は、官学に対する私立学校の存在意義を高めるために奮闘したものと

「大逆事件」「虎ノ門事件」「5・15事件」「帝人事件」などの著名な刑事事件を担当し、人権派の弁護士として広くその名前を知られるようになります。

1946年、敗戦後の大学の混乱期を、今村先生は80歳の老境にありましたが、学生の強い懇願に心え、総長に就任されました。戦後の学制改革により旧制大学から新制大学への移行期であり、新しい設置基準によるキャンパスの整備や人材の確保が急務とされてきました。

しかし、当時の専修大学は財政的にはなほ脆弱で、大学は存亡の危機に立たされていました。

一雨ごとに暖かさを増し、そこで花の便りが聞かれる季節となりました。平成25(2013)年度の卒業式・修了式を挙げていきますことは、まことにうれしい限りであります。

思えば卒業生の皆さんが2年次生への進級を控えた2011年3月11日、東日本大震災が日本列島を襲い、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。それに続く福島第一原子力発電所の事故は、いまだ根本的解決策を見出しえないまま現在に至っています。本学においても人的被害こそなかったものの、神田5号館、生田2、3号館が被災し、使用不能に陥り、授業に支障をきたすのではないかと懸念されました。しかし、関係各位の努力により何とか通常通り授業を行うことができました。

被災した建物も、神田5号館は、この4月に多角的な学生の学業支援機能を盛り込んだ建物として生まれ変わります。生田キャンパスではグローバル時代に対応すべく専修大学国際交流会館が建設中です。生田3号館跡地には大学院棟、2号館跡地にはアクティブ・ラーニングなどの新しい授業形態に対応できる新校舎の構想が固まったところでもあります。

専修大学は今年秋に創立135年を迎えます。創立者である相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4先生は、ともに幕末の動乱期つ有為な人材を育成する

そんな時に、是非、思い起こして頂きたいのは、第5代総長の今村力三郎先生の人生訓「履正無畏」(正しきを履んで畏れることなし)です。何事においても正しいと信じることに對して、畏れ怖ることなく現実を正面から見据え、果敢に立ち向かう姿勢の大切さを、この言葉に託したのであります。

今村先生は、専修学校に学び、在学中に代言人(弁護士)試験に合格、首席で卒業しています。(要旨)